

## 巻頭言（紀要第3号の発刊に寄せて）

島根職業能力開発短期大学校は、厚生労働省所管の工科系短大校として、国に代わり独立行政法人高齢・障害・求職者雇用支援機構が島根県江津市に設置しています。平成5年4月の開校以来、早24年の歳月が経過いたしました。この間、当局はもとより県、市、地域団体等の関係機関、企業の皆様及び学校関係の方々を始めとした各方面の多くの方々のご支援の下、地域のものづくり人材育成の拠点として活動してこられたことは、教職員一同誠に喜びに堪えないところであります。

当校では、ものづくりの現場で活躍するため、専門的な知識を学び応用する技術、技術を実際の形にする技能を兼ね備えた実践技術者を育成しています。実践技術者の育成に当たっては、企業の戦力となる技術及び技能を付与することはもちろんですが、その前に現場に即した「人をつくる」ことを重要視しています。

昨今の“ものづくり”産業社会においては、デジタル化やモジュール化が進む中で、企業内独自の製造ノウハウを蓄積し更なる価値を見出していかなければなりません。こうしたノウハウや価値を見出すには、本物の体験や対話、しぐさを通じた「人」の力が左右されます。当校においては、学生一人ひとりの対話やしぐさを見て教育訓練の本質を見極めていくことが肝要であると心得、常に産業構造等における変化を捉えカリキュラムから就職までの一連の流れに反映させていくこととしております。

今回発刊の紀要は、主に平成28年度の活動の記録を記載するものです。主たる活動としては、学生を交えての講師陣の専門分野に関する研究、授業中での実践的な課題及び総合制作実習などがあります。これらの活動は、講師陣自身の創造力、発想力を豊かにするだけでなく、学生にとっても問題解決力や思考力などを身につける良い機会となり、極めて有意義なことであり、その中で制作された作品などについては、学生の限られた授業時間の中で試行錯誤を通して完成させたもので、設計から製作まで一連の流れを体験し、ものづくりの現場での必須な知識及び技能・技術が集約されています。紀要第3号はこのような活動を日ごろから記録にとどめ、常に現場の問題に直面し、今後どのように向かい合っていくべきなのかなど、日々問題意識を持って取り組んでいる講師陣の教育方法や専門技術に係る研究成果について、地域の企業や事業主団体等の方々に十分ご理解していただくことを目的に編纂したものであります。

本報告内容が一人でも多くの方々に読まれ、教育訓練の向上・発展のため、地域社会及び産業に貢献するため、さらには各自の飛躍の糧となるよう関係各位からの忌憚のないご意見・ご批評を頂ければ幸甚に存じます。

最後に今後においても若者に“ものづくり”のすばらしさと重要さを分かりやすく啓蒙して行くことが、当校の使命として研鑽していく所存でございますので、なお一層のご指導ご鞭撻賜りますようお願い申し上げます。

2017年5月30日

島根職業能力開発短期大学校

校長 紀高志